

常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和5年7月18日（火）～19日（水）

2 視察項目（視察都市）

- ・シティプロモーションについて（足立区）
- ・スマートシティ及び自治体DXについて（つくば市）

3 参加委員

委員長：塚 理、副委員長：河本 光宏

委員：米川 勝利、下野 巖、安孫子浩子、円藤 こずえ

4 調査概要

足立区では、治安が悪い等のマイナスイメージを払拭したいという区長の強い思いのもと、平成22年にシティプロモーション課が発足した。「足立区を自慢できる、誇れるまちへと進化させる」を目標に掲げ、イメージアップのためのシティプロモーションを実施している。区民に「届く」広告物の制作等でPRを続けるとともに、職員の広報スキルアップを積み重ねる等し、着実に成果を上げている。

つくば市は、産学、研究機関連携が非常にさかんで、約150の機関と連携している。「ともに創る」という視点で、市民も参加できる社会実験を積極的に行い、科学技術で社会課題を解決に導くよう努めている。

実験により得られたデータを庁内、庁外問わず公開、共有するオープンデータに力を入れるほか、人口構成をはじめとする様々な数値から特徴を読み取り、それぞれの地域が持つ課題を分析し、政策立案につなげている。



5 委員長所感

足立区では、企画力や プロモーション力を強化するために、民間から管理職や担当者を採用し、職員の異動も考えながらスペシャリストを育成していた。シティプロモーション課は「区役所の中の広告代理店」と考え、全課のプロモーションや相談対応を担い、「手にとってもらえないチラシは作らないのと一緒に」という理念のもと、見せ方や伝え方に徹底してこだわっていたことが参考になった。

つくば市ではスーパーサイエンスシティ構想の概要、オープンデータの取組、生成AIの庁内活用について見識を深めることができた。とくに、オープンデータの取組は、本市よりもかなり前方を走られており、庁内データの利活用方法や民間事業者との連携等、大変参考になった。本市におけるオールドニュータウン問題と同様の課題も抱えておられることから、つくば市における取組の成果がどのように表れるか、今後の動向を注視したいと感じた。